

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<26週> ヘルパンギーナ、手足口病 - 定点当たり報告数は8週続けて前週より増加を示した / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<麻疹> 第26週の報告患者総数は1,043で、定点当たり報告数は0.35

<腸管出血性大腸菌感染症> O157感染症の広域発生の影響で早い時期から報告が多くなっている



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 咽頭結膜熱 / 手足口病 / 感染性胃腸炎 / インフルエンザウイルス



速報  
P.6

愛媛県における今夏のエンテロウイルス検出状況 / 感染症発生動向調査事業年報( CD-ROM版データ集 )の発行について



海外感染症情報  
P.7

W135群髄膜炎菌感染症 - 更新 / 英国の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病



感染症の話  
P.8-11

急性灰白髄炎(ポリオ、小児麻痺)  
2000年末にはポリオの流行が見られる国は20カ国に減少しており、WHOは世界的な根絶宣言を2005年末に行うことを予定している



予防接種後の抗体検査について

読者のコーナー  
P.12



グラフ総覧(26週)  
P.13-19



26週のデータ  
P.20-27



# 発生動向総覧

第26週コメント 7月5日集計分

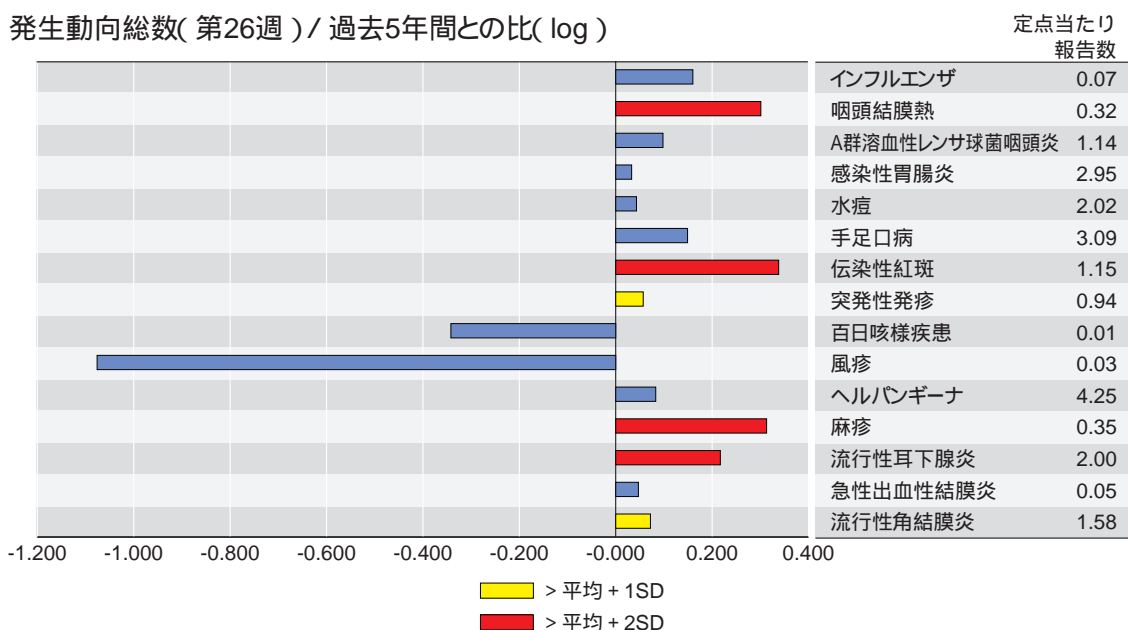
## 全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例( 推定感染地: 中国 )、細菌性赤痢11例( 推定感染地: インドネシア7例、タイ2例、中国2例 )、腸チフス4例( 推定感染地: 国内、タイ、インドネシア、パキスタン各1例 )
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症88例
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例、エキノコックス症1例( 北海道 )、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、ジアルジア症2例、ツツガムシ病12例、日本紅斑熱2例( ともに高知県 )、破傷風3例
  - 急性ウイルス性肝炎14例
    - A型4例
    - B型6例\_\_感染経路: 性行為4例、不明2例
    - C型2例
    - その他2例( サイトメガロウイルス、EBウイルス各1例 )
  - クロイツフェルト・ヤコブ病1例( 孤発性 )
  - 後天性免疫不全症候群10例( AIDS 2例、無症候性キャリア8例 )
    - 感染経路: 性行為10例( 異性間5例、同性間3例、異性/同性1例、不明1例\_\_輸血歴もあり )
  - 梅毒8例( 早期顕症5例、晩期顕症1例、無症候2例 )
  - マラリア2例
    - 三日熱1例( 推定感染地: インドネシア )
    - 熱帯熱1例( 推定感染地: 国不明\_\_アフリカ )

## 定点把握の対象となる4類感染症( 週報対象のもの )

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数がかなり多い( 詳細は4ページ「注目すべき感染症」参照 )。流行性耳下腺炎は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が続いており、都道府県別では福井県6.1、石川県3.8、新潟県、佐賀県、福岡県各3.7などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から続いており、夏の本格的なシーズンに向けて増加中である。都道府県別では滋賀県1.3、京都府0.9、埼玉県、青森県各0.8などの報告がある。伝染性紅斑の定点当たり報告数は過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっており、埼玉県2.9、福井県、山梨県各2.2などの報告がある。流行性角結膜炎の定点当たり報告数はやや多くなっている。

発生動向総数( 第26週 ) / 過去5年間との比( log )

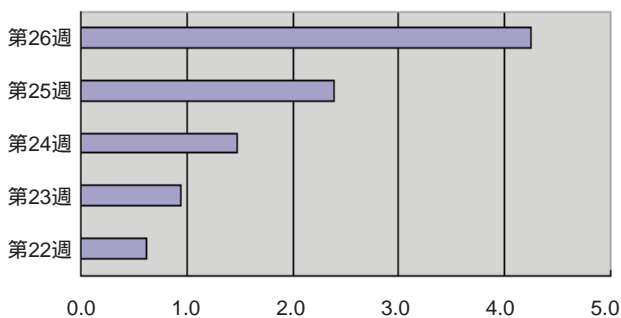


当該週と過去5年間の平均( 過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均 ) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

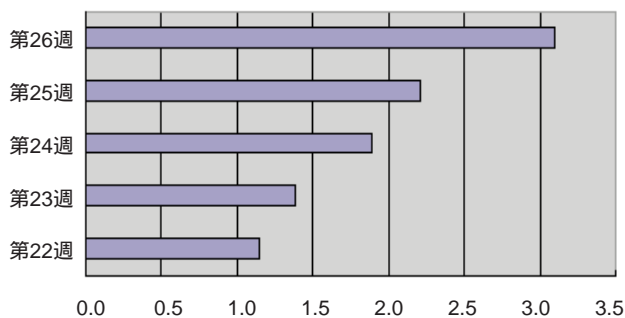
## 最近の注目疾患－5週間の動き

ヘルパンギーナ、手足口病の定点当たり報告数は、8週続けて前週より増加を示した。咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎( 微増 )、無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は、前週より増加した。

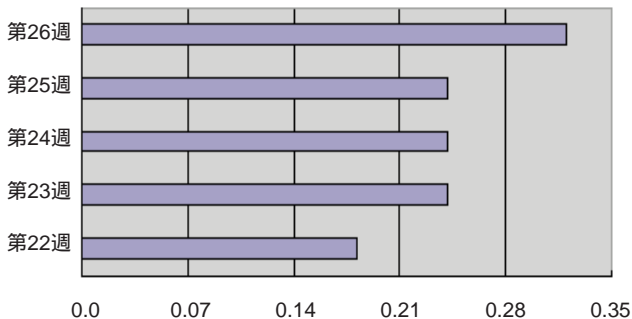
ヘルパンギーナ



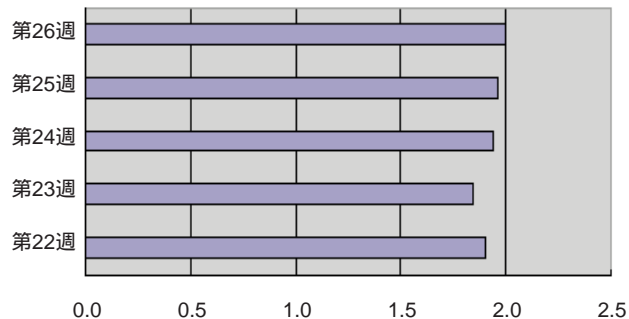
手足口病



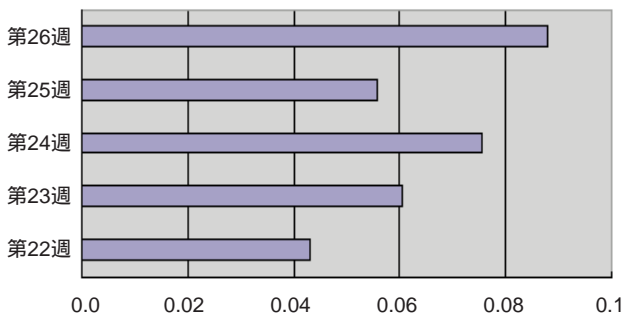
咽頭結膜熱



流行性耳下腺炎



無菌性髄膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



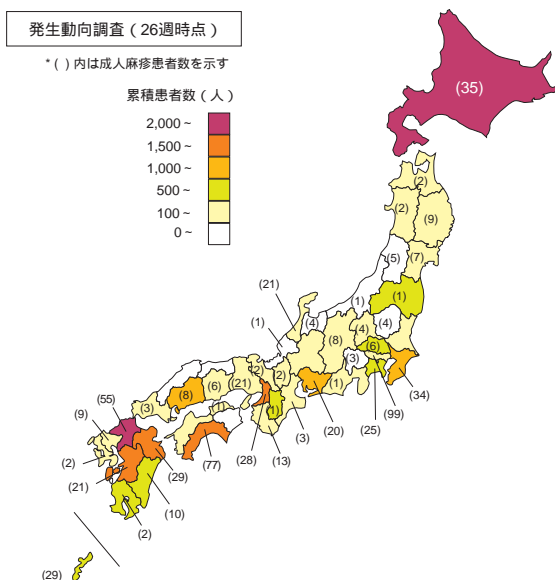
# 注目すべき感染症

## 麻疹流行状況

2001年第26週( 6月25日 ~ 7月1日 )の、全国定点医療機関からの麻疹報告患者総数は1,043で、定点当たり報告数は0.35である。2001年第1週からの累積患者数は26,648、性別内訳は男14,385、女12,263とやや男性に多い。累積報告数の年齢階級別では1歳未満3,686(うち6カ月未満356)、1歳5,996、2歳2,699、3歳1,954、4歳1,670、5~9歳5,933、10~19歳4,190、20歳以上520となっている。小児科定点から報告される麻疹患者は18歳未満の小児を対象としているが、小児科を受診する成人麻疹患者もあり、これらの症例が小児科定点を通じて報告されている。

基幹病院定点から報告される18歳以上の成人麻疹については、2001年第1週から第26週までの累積報告数は614( 去年同期251 )である。

厚生労働省感染症発生動向調査「警報・注意報発生システム」によれば、麻疹流行警報が北海道の8保健所、福岡県の7保健所、大阪府、熊本県、沖縄県の各6保健所など計67の保健所で、注意報は神奈川県9保健所、福岡県8保健所、千葉県、東京都、愛知県、大阪府の各4保健所など計76の保健所で発生している。

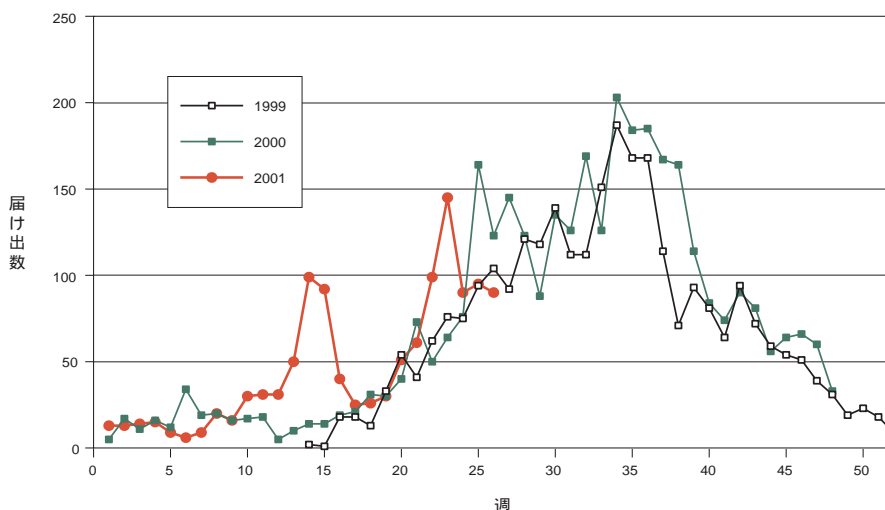


## 腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2001年は複数のO157感染症が広域発生した影響で、昨年に比べ患者報告数が早い時期から多く見られている。

2001年第13週 ~ 16週にかけての患者増加は、関東地方を中心とした肉加工食品を感染源とする事例、第22週 ~ 23週にかけての患者増加は、神奈川県の小学校の修学旅行における集団発生による。

腸管出血性大腸菌感染症( 無症状保菌者含む ) 届け出状況





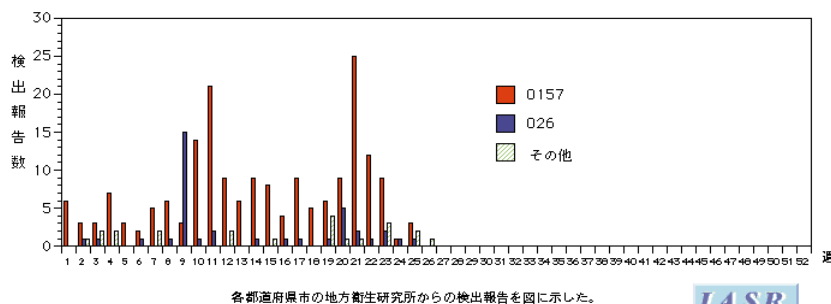
## 病原体情報

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
(2001年7月6日現在報告分)

### ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26検出報告 2001年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が188件、O26が38件である。第21週には、石川県で起きた集団発生事例からのO157検出15件が報告された。最近では、O157が第24週に浜松市1件、第25週に3件(函館市2、香川県1)、O26が第24週に新潟市1件、第25週に秋田県1件の報告があった。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2001年 (病原微生物検出情報: 2001年7月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



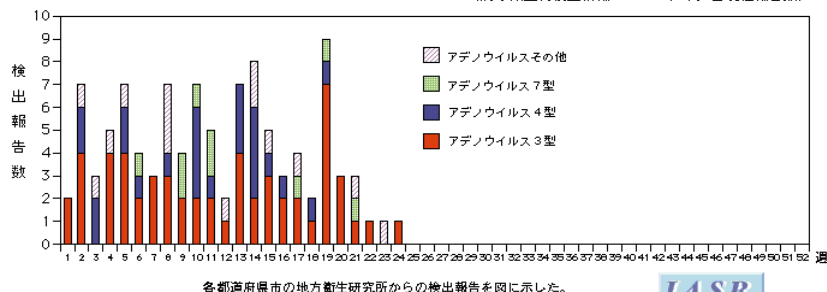
Infectious Agents Surveillance Report

### 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、アデノウイルス3型56件(長野県24、新潟県6、宮崎県5、広島市4など)、4型24件(兵庫県21、新潟県2、福岡市1)、7型9件(新潟県6、北九州市3)、2型5件(長野県2、新潟県、広島市、北九州市各1)、1型4件(長野県2、広島市2)、5型4件(兵庫県3、北九州市1)、19型1件(広島市1)である。

週別咽頭結膜熱患者からのアデノウイルス分離報告数、2001年

(病原微生物検出情報: 2001年7月6日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report

### 手足口病患者から分離されたウイルス 2001年

本年分離報告されたウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)18件(長野県、長崎県、熊本県、宮崎県各3、秋田県、愛媛県各2など)、A2型(CA2)1件(神奈川県)、A6型(CA6)1件(滋賀県)、エコーウイルス2型5件(大阪府5)、エコーウイルス18型2件(宮崎県2)、エンテロウイルス71型(EV71)4件(鳥根県3、長野県1)である。

### 感染性胃腸炎 2000/2001シーズン ロタウイルスおよびSRSV検出報告

今シーズンのロタウイルスの検出は425件、SRSVの検出は979件報告されている。最近では、ロタウイルスが第26週に新潟県1、大阪市1、SRSVは第24週に栃木県3、新潟県3、第25週に新潟県1、第26週に新潟県1が報告されている。

### インフルエンザ 2000/2001シーズン

今シーズンの分離ウイルスは、A/ソ連(H1N1)型が1,844件、A/香港(H3N2)型が773件、B型が2,300件報告されている。2001年6月以降に分離されたウイルスは13件報告されており、A/香港型が1件(第22週;京都市1)、B型が12件(第22週;川崎市1、第23週;沖縄県3、第24週;青森県、香川県各2、札幌市、長野県、沖縄県各1、第25週;名古屋市1)である。



## 愛媛県における今夏のエンテロウイルス検出状況

### 1. 手足口病からコクサッキーウイルスA16型( CA16 )の分離

愛媛県感染症発生動向調査によると、2001年の手足口病の患者発生状況は、2000年、1999年に比べ、発生時期、患者数ともに緩やかであるが、第22週頃から徐々に増加傾向にある。現在11例のウイルス検索を実施しているが、そのうち2例( 5月28日採取の咽頭ぬぐい液と、6月11日採取の水疱内容物 )からCA16が分離され、いずれもFL、Vero細胞に感受性を示した。ウイルス抗原は代替フロク( HCFC-141b )で精製後、自家製免疫血清で中和試験を実施したところ、容易に中和された。

### 2. ヘルパンギーナからコクサッキーウイルスA5型( CA5 )の分離

第21週以降ヘルパンギーナの患者発生が急増し、第25週には1定点当たり4.5人で、現在も増加傾向にある。流行地域( 県東部 )の患者から咽頭ぬぐい液12検体を採取し、ウイルス分離を実施した。その結果、RD-18S細胞を用いて、5月14日採取の2例と6月4日採取の1例からCA5が分離された。現在、ウイルス検索を継続中である。

愛媛県立衛生環境研究所 吉田紀美 山下育孝 近藤玲子 大瀬戸光明

( IASR2001年8月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )

## 「感染症発生動向調査事業年報( CD-ROM版データ集 ) 1999/4 - 2000/12」の発行について

この度、厚生労働省健康局結核感染症課と国立感染症研究所感染症情報センターとで、「感染症発生動向調査事業年報( CD-ROM版データ集 )1999/4-2000/12」を発行いたしました。ここでは、コメントを付けるのは最小限にして、できるだけ早く還元し、しかも利用者がデータを処理できるような形にすることを目指しました。

送付先は、都道府県、政令市、保健所、地方衛生研究所、感染症に関連のある学会、医科および医学部のある大学、医師会、結核予防会、結核研究所、公衆衛生協会、性と健康医学財団、ウイルス肝炎研究財団などですので、必要とされる方はそれらのところに連絡を取るか、当感染症情報センターにご連絡下さい。





## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### W135群髄膜炎菌感染症—更新

WHO/CSR 2001年7月3日

フランスでは6月22日のWHOへの報告以来、W135群髄膜炎菌感染症例が4例増加して6例となった( haj巡礼者との接触者 )。W135群髄膜炎菌は検査で確認されている。

### 英国の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病

Eurosurveillance weekly 2001年7月5日

先週、英国でのクロイツフェルト・ヤコブ病( 変異型を含む )についての最新のサーベイランス報告が発表され、英国クロイツフェルト・ヤコブ病サーベイランス部のウェブサイト( <http://www.cjd.ed.ac.uk> )からも閲覧が可能となった。その報告書には、クロイツフェルト・ヤコブ病のすべての型の状況が詳細に概観されている。

2000年末までに英国で、疑い例( probable )を含む変異型クロイツフェルト・ヤコブ病で84人が死亡した( 2001年1月の2例の疑い例( probable )の死亡を加えている。さらに2001年1月31日時点で7例の疑い例( probable )が生存している )。変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の罹患率の推定の増加率は年に1.35( 95%信頼区間: 1.13-1.61 )である。2001年の総死亡数については、この傾向が続くと仮定すると36人( 21人から58人 )と予測される。2001年6月末までに英国で、疑い例( probable )を含む変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の患者が102人に達したことが報告された。

2000年末までの84人の死亡のうち75人は神経病理学的に診断され、さらに2人が神経病理学的診断の結果待ちである。これら変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の全症例の臨床的、神経病理学的、および疫学的な特徴は一様であり、以前からの変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の記述と合致する。1999年10月に74歳で死亡した患者が神経病理学的に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病と診断されたことで、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が今まで知られていた年齢幅より広く存在することが明らかになった。

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の発症の危険因子は、年齢、英国での居住、およびプリオン蛋白遺伝子のコドン129の対立遺伝子が共にメチオニンであることである。遺伝子解析が行えた変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の87症例すべてが、メチオニンのホモ接合であった。

第9版の年次報告の解析では、過去の手術、輸血歴、職業、食事の種類と関係して変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のリスクが増加していることを示す決定的な証拠はなかった。これらの結果を引き出す症例対照研究は、症例や対照の数が比較的小さいため、有意な差が出にくい。また、輸血や手術のような推定上の危険因子については、潜伏期が長いいため正確な評価が下されるのには時間がかかる可能性がある。



## 感染症の話

### 急性灰白髄炎( ポリオ、小児麻痺 )

1980年に世界保健機関( WHO )により根絶宣言が出された天然痘に続いて、WHOが根絶のために各国と協力して対策を強化している疾患である。2000年に予定していた世界的な根絶宣言は延期せざるを得なくなったが、2000年、WHO西太平洋地域では地域における根絶宣言が出され、同じくヨーロッパ地域でもまもなく根絶宣言が出されようとしており、全体的には確実に患者数の減少に向かっている。しかしながら、アフリカ、南・東アジアなどにおいては、経済的・政治的不安定を背景にして、まだまだ対策が十分に実効をあげていないことが危惧されている。

#### 疫学

ポリオウイルスの自然宿主はヒトのみである。ポリオ流行の記載は18世紀頃からみられ、1950年代まではしばしば世界各地で流行した。しかしその後、不活化ワクチン( inactivated poliovirus vaccine : IPV )に次いで生ポリオワクチン( oral poliovirus vaccine : OPV )が開発され、定期接種されることにより多くの国でポリオ患者は激減した。WHOは、西暦2000年までに世界からポリオを根絶する計画をたて、地域流行のある国を中心にして定期のポリオワクチン接種を推進し、National Immunization Days( NIDs : 一定の日に一定年齢の子どもたちに一斉にOPVを経口服用させる )を実施することによりこれらを補足、強化し、さらには、高危険地域では家庭訪問によるワクチン接種の徹底( mopping-up campaigns )を行ってきた。また、確実にポリオ様患者を捕捉するために、急性弛緩性麻痺( acute flaccid paralysis ; AFP )の発生動向調査を強化してきた。

日本におけるポリオは、1940年代頃から全国各地で流行がみられ、1960年には北海道を中心に5,000名以上の患者が発生する大流行となった。そのため1961年にOPVを緊急輸入し、一斉に投与することによって流行は急速に終息した。引き続き国産OPVが認可され、1963年からは国産OPVの2回投与による定期接種が行われて現在に至っている。1980年の1型ポリオの症例を最後に、その後は野生型ポリオウイルスによるポリオ麻痺症例は見られていない。その後に報告されているのは全てワクチン株由来の症例( ワクチン関連麻痺 : VAPP, vaccine associated paralytic poliomyelitis )である。

本邦におけるポリオ根絶宣言のために、1998年5月1日よりポリオ様疾患の発生動向調査が行われた。この調査では、ポリオが疑われるAFP患者を診断した医師は、保健所に連絡するとともに、確定診断のための検体( 糞便 )を発症14日以内に2回採取することが求められた。また、日本国内でいくつかの地域を選定し、1998年1年間のAFP患者の発生調査、1999年1月から2000年3月までは、ギランバレー症候群を含めたAFP患者全員から2回糞便を採取し、ポリオウイルスが分離されないことを確認する調査も行われ、国内のポリオ患者発生がないことが臨床的、ウイルス学的に確認され、我が国におけるポリオ根絶が国際的にも認められた。

日本が所属している西太平洋地域全体に関しては、1997年のカンボジアでの症例が最後であり、その後の1999年の中国での症例については、他国からの輸入株によるもので土着のものではないと判断され、その結果2000年10月の京都会議において、この地域でのポリオ根絶宣言がなされた。

世界全体では、根絶宣言がなされたアメリカ地域( 1994年 )、西太平洋地域以外に、ヨーロッパ地域でも1998年11月トルコの症例以来患者の発生が見られてなく、2001年に根絶宣言を予定し



ている。2001年3~5月にブルガリアで2症例から1型ポリオウイルス野生株が分離されたが、今のところ輸入例と考えられている。残るはアフリカ地域、東地中海地域、南・東アジア地域である。ポリオの流行が見られる国に関しては1999年末に30カ国であったのが、2000年末には20カ国に減少している。2002年には野生株ウイルスの伝播が断たれ、世界的な根絶宣言を2005年末に行うというのが、現在のWHOが描くシナリオである。

### 病原体

病原体はポリオウイルスで、エコーウイルス、コクサッキーウイルスとともにエンテロウイルス属(腸内ウイルス属)に分類される。抗原性により1型、2型、3型の3種類に分けられる。アルコールやエーテル、クロロホルム、非イオン界面活性剤では不活化されないが、熱、ホルムアルデヒド、塩素、紫外線により速やかに不活化される。

ポリオウイルスは経口的にヒトの体内に入り、咽頭や小腸の粘膜で増殖し、リンパ節を介して血流中に入る。その後に脊髄を中心とする中枢神経系へ達し、脊髄前角細胞や脳幹の運動神経ニューロンに感染し、これらを破壊することによって典型的なポリオの症状を生ずる。発症後1週間を経過すると、咽頭分泌液にはウイルスはほとんど排泄されなくなるが、糞便には数週間にわたって排泄されるので、感染源としての問題を生じる。

### 臨床症状

感染者の90~95%は不顕性に終わり、約5%(4~8%)では、発熱、頭痛、咽頭痛、悪心、嘔吐などの感冒様症状に終始し(不全型)、1~2%では上記の症状に引き続き無菌性髄膜炎を起こす(非麻痺型)。

定型的な麻痺型ポリオを発病するのは感染者の0.1~2%である。その場合には6~20日の潜伏期をおき、前駆症状が1~10日続いた後、四肢の非対称性の弛緩性麻痺(AFP)が出現する。この場合、特に小児における前駆症状は2相性となることが多く、初期の軽い症状の後1~7日の間隔をあけて、表在反射消失、筋肉痛、筋攣縮などの前駆徴候がみられ、その後麻痺に進展する。しかし、全く前駆症状なくして麻痺が現れる症例もある。麻痺は下肢に多くみられ、知覚障害はみられない。麻痺型としてはこのような脊髄型が大部分であるが、球麻痺を合併して嚥下、発語、呼吸が障害されることもある。多くの場合、麻痺は完全に回復するが、発症から12カ月過ぎても麻痺あるいは筋力低下が残る症例では、永続的な後遺症を残す可能性が高い。死亡率に関しては、小児では2~5%であるが、成人では15~30%と高くなり、特に妊婦では重症になる傾向がある。球麻痺を合併した場合の死亡率は、25~75%と高率である。髄液検査では、細胞数増多( $10 \sim 200/\text{mm}^3$ )、蛋白増加( $40 \sim 50\text{mg/dl}$ )などが見られる。

### 病原診断

確定診断はウイルス分離及び血清診断によるが、糞便からのウイルス分離がもっとも重要であり、血清診断は補助的である。ウイルス分離は比較的容易であるが、麻痺の出現後できる限り早い時期に検査材料(糞便など)を2回採取する必要がある。初発症状出現後、咽頭分泌液からは約1週間、糞便からは約2週間ウイルスが分離できる。髄液からウイルスを分離できれば診断的価

値は非常に高いが、分離率は低い。ポリオウイルスが検出された場合は、ワクチン由来株か野生株かの鑑別が必要となる。

血清中和抗体は、急性期と回復期のペア血清で4倍以上の上昇が認められれば診断的価値があるが、発症早期から上昇するために確定できないこともある。

### 治療・予防

特異的な治療法はなく、対症療法が中心となる。呼吸障害や分泌物喀出不全が認められる例では、気管切開、挿管、あるいは補助呼吸が必要となる。

本邦を含む多くの国々では、IPVあるいはOPVの普及により、野生株によるポリオ患者発生は殆どみられなくなった。しかし、いまだに世界的には野生型ポリオが流行ないし存在している地域がみられ、我が国への侵入も警戒する必要がある。現在のわが国での予防接種はOPVの2回投与方式であるが、世界的には3回以上の投与が一般的である。

OPVには1～3型のポリオウイルスが混合されている。3つの型の混合生ワクチンを投与しても、ある型が腸管内で先に増殖すると、干渉作用により他の型のウイルスが増殖できず免疫が得られないことがある。厚生省流行予測調査(当時)によるポリオ中和抗体保有状況をみると、1975～1977年生まれの年齢群において低い傾向がある。この様な点から、ポリオがまだ存在する国への旅行者に対しては、ワクチンの追加投与が勧められている。また0歳代の年齢群では1型に対する抗体保有率も低いと、特にこの年齢群には注意すべきである。

### OPVとIPV

OPV接種の有効性は、多くの報告から90%以上と考えられており、また世界各地で行われた一斉投与によるポリオの激減からもその効果は明らかである。ポリオワクチンによる重篤な副作用としてVAPPがある。OPVにより世界では毎年40万人もの子どもたちがポリオ罹患から救われているといわれている一方、OPV投与200～300万人に1人の割合でVAPPが出現している。米国では、初回接種で78万投与あたり、2回以降接種では600万投与あたりそれぞれ1例、我が国では400万投与あたり1例のVAPPがあり、1981～2000年の間に国内で15例が報告されている。接種者周辺における感染(vaccine contact case: VCC)も米国で640万投与あたり、我が国では530万投与あたりそれぞれ1例みられる。野生株によるポリオ患者が多い時代にはVAPPやVCCが極めて稀に発生したとしてもriskとbenefitのバランスは明らかにOPVにあるが、OPVを使用し続ける限りVAPPの問題も続くことになり、ここにIPV導入の最大の意義があるとされている。

このような背景のもと、世界全体を見るとOPVによる接種をする国が多いものの、先進国ではIPVへの移行を行った国や検討中の国が相当ある。最初にIPVを複数回投与することによって血中に中和抗体を産生させ、その後さらに複数回のOPV追加投与によって腸管免疫を与えるIPV/OPV併用方式をとる国もある。併用方式の利点は、OPV投与時にはすでに血中抗体が産生されているため、OPVウイルスは腸管で増えるだけで中枢神経へ到達することがなく、VAPPの発生を95%減少させることが出来る、というものである。しかし、IPVは注射による投与であり、手技、廃棄物、注射であるがゆえの痛みや副反応などの問題もある。ちなみに米国は1997年からIPV/OPV併用方式を導入していたが、2000年1月からは、原則としてIPV4回接種方式を採用することを決定した。

野性株によるポリオが根絶されても、ポリオウイルスが存在する限りはポリオワクチンの投与は必要であるとするのか、目前に控えた世界からの制圧をまってワクチン接種を中止するのか、移行措置を講じつつIPVの使用に踏み切るのかなど、我が国におけるポリオワクチンの今後について、世界的な流行の状況を視点においてワクチンの有効性・安全性を総合的に論じる時期となっている。

#### 感染症法におけるポリオの取り扱い

ポリオは2類感染症に属する疾患であり、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の方法によって病原体診断がなされたもの。

( 材料 )便など

・病原体の検出

ポリオウイルスの分離・同定など

( 国立感染症研究所感染症情報センター )



## 読者のコーナー

Q: 1才8カ月の女兒についての質問です。血液検査で過去の予防接種後の抗体検査をしました。検査方法はCF法だそうです。おたふくかぜ、水ぼうそう(水痘)ともに4未満で、数値的には抗体がうまく付いていないとの説明を受けました。もう一度予防接種を受けたほうがよいのでしょうか? その場合の副作用のリスクはどうでしょうか? 参考までに予防接種歴を述べておきます。

5カ月: BCG&ツベルクリン

7カ月: ポリオ

10カ月: 麻疹(通園する保育園で麻疹患者が出たため: 自費)

~1才: 三種混合( I 期初回)

: インフルエンザ

1才2カ月: 水ぼうそう

1才4カ月: おたふくかぜ

1才5カ月: 風疹

1才7カ月: ポリオ

1才8カ月: 麻疹( 公費)

( 埼玉県主婦F.Y.さん )

予防接種後の抗体検査について

CF法という検査方法は感度があまり良くありません。そのため、水ぼうそうやおたふくかぜにかかった後しばらくの間しか陽性が続きません。ワクチン接種後の抗体価を測定する方法としてはあまり適した方法ではなく、おたふくかぜワクチン接種後の場合、CF法ではおそらく陽性にはならないと思います。おたふくかぜはELISA法で、水ぼうそうはIAHA法で測定をしてもらうのが良いと思います。

もちろん、上記( CF法以外 )の測定方法で測定しても陰性の場合、水ぼうそうやおたふくかぜの患者さんと接触するとかかってしまうことがあります。再接種をした場合の副反応のリスクは、1回目に受けたときと変わりはありません。万が一抗体陽性になっているのにワクチンをしたとしても、副反応が強くなることはありませんので、ご心配はいりません。

( 国立感染症研究所感染症情報センター )

\*\*\*\*\*

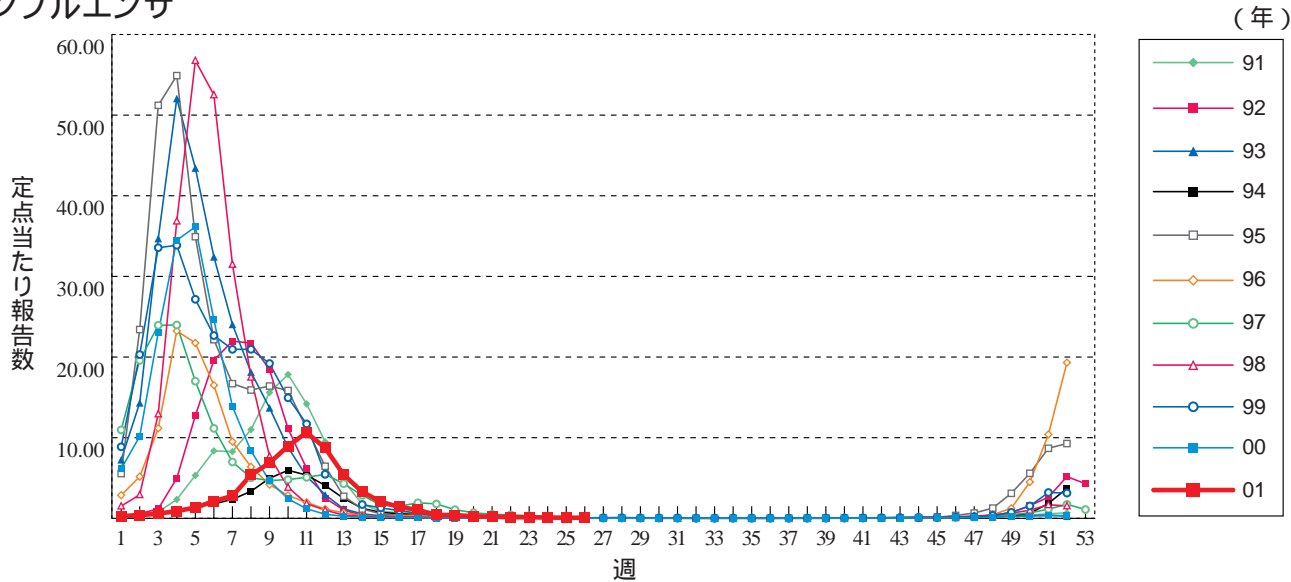
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

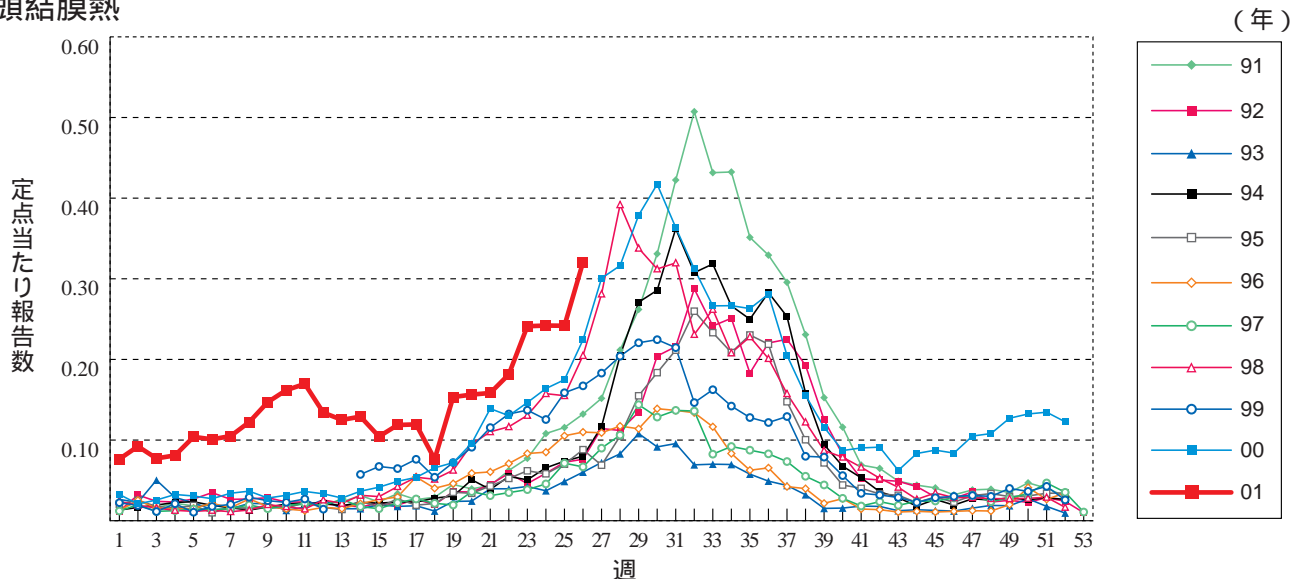


**グラフ総覧(26週)**

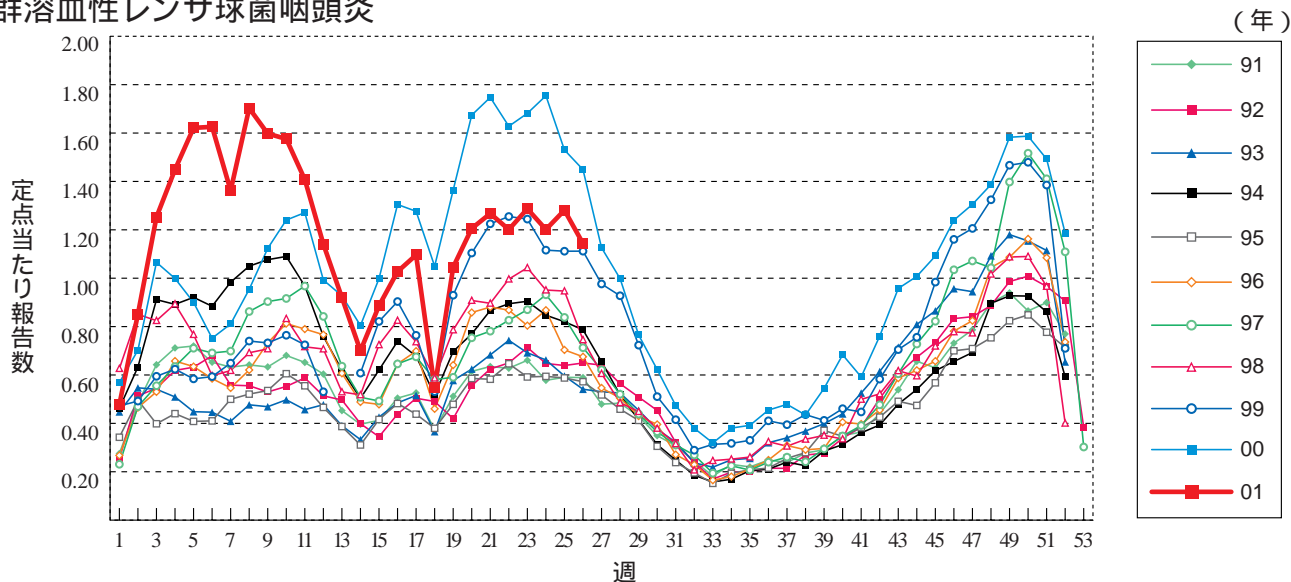
**インフルエンザ**



**咽頭結膜熱**

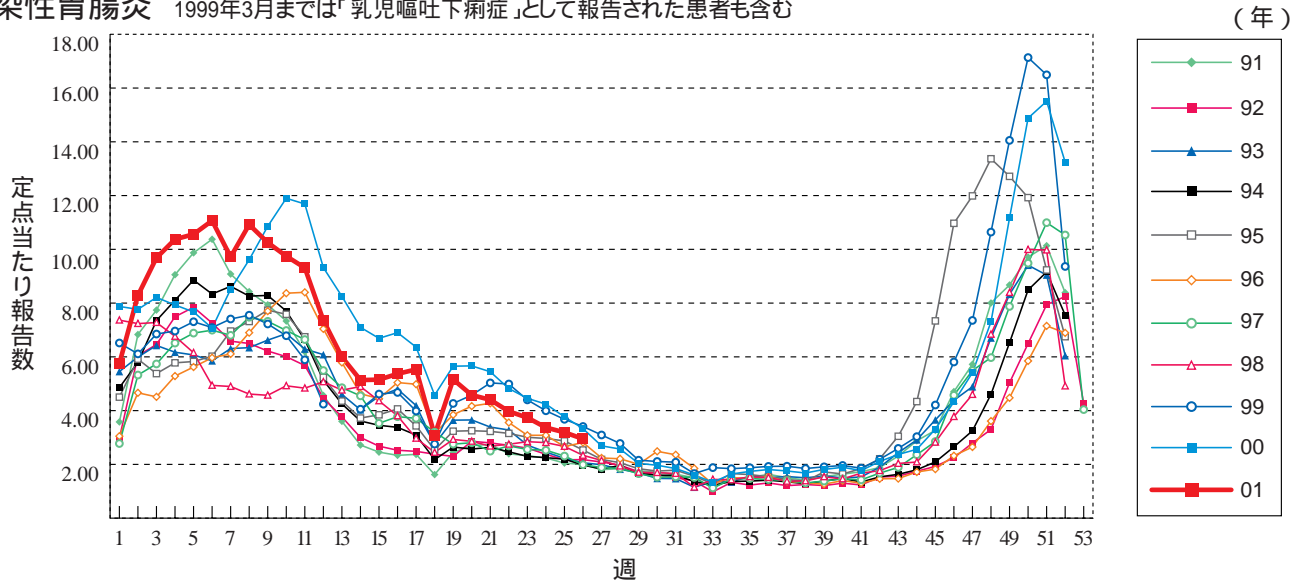


**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

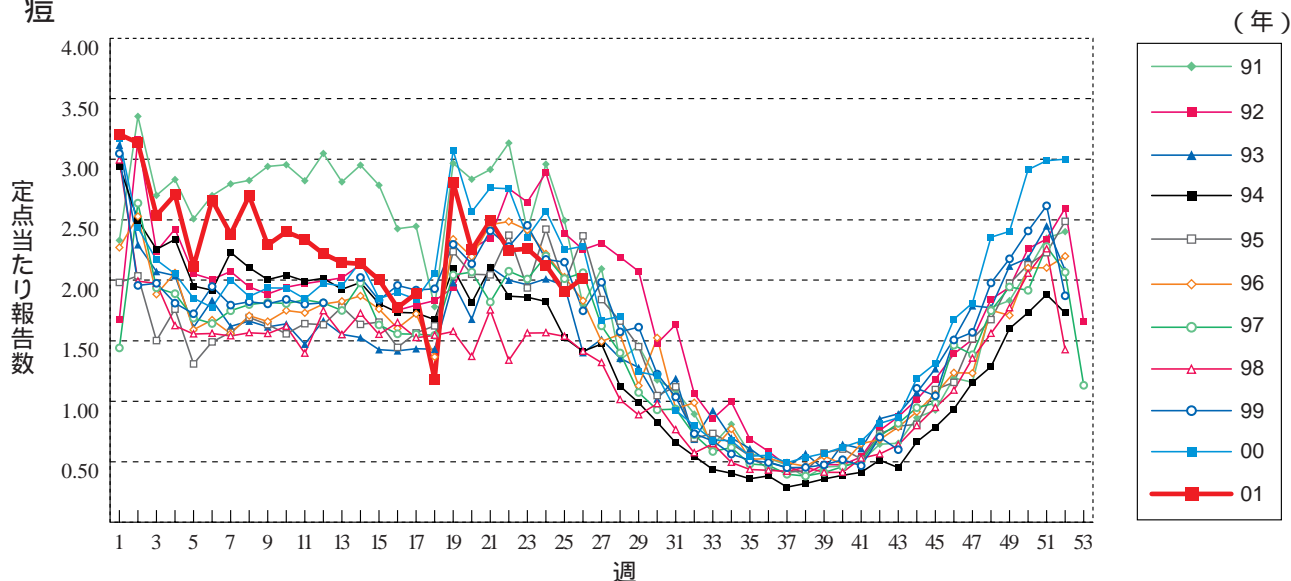




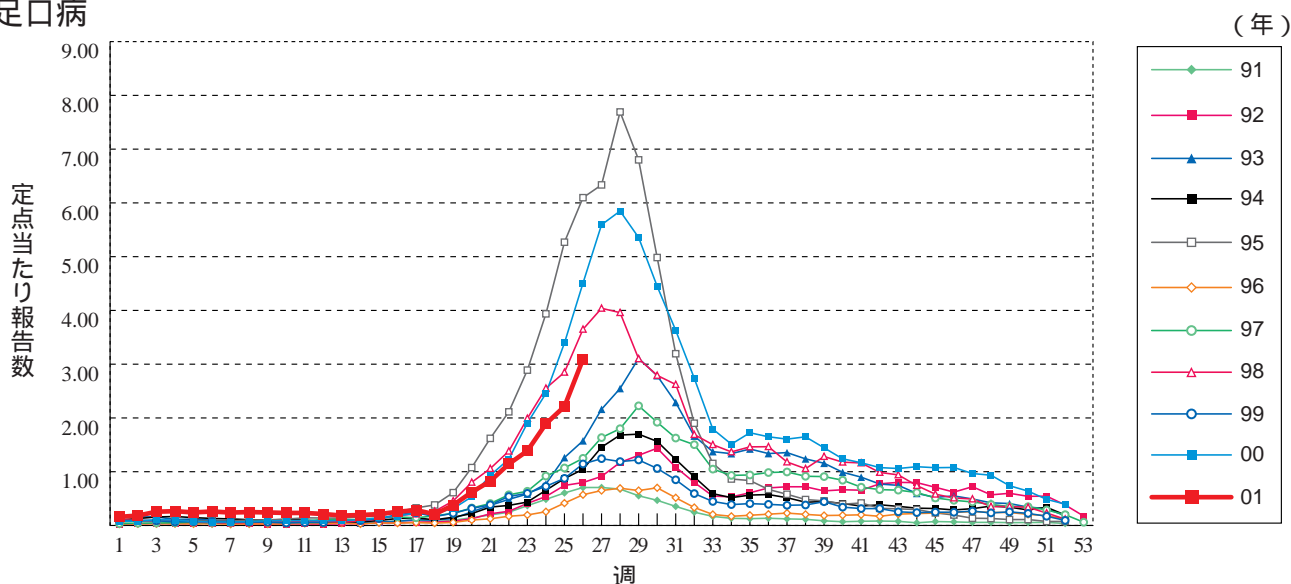
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



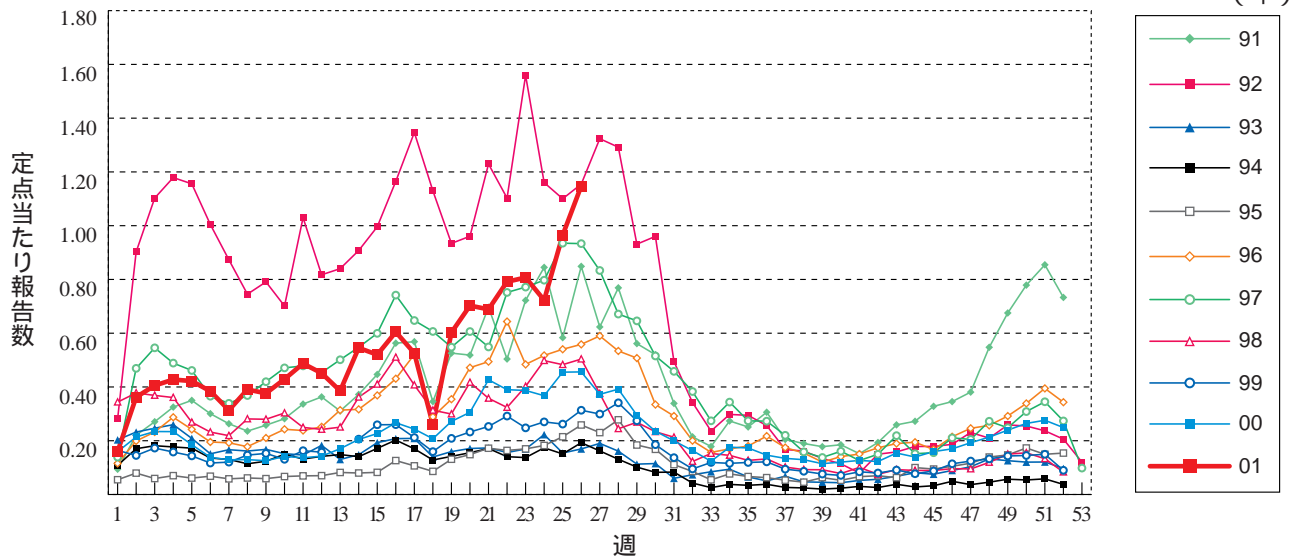
**水痘**



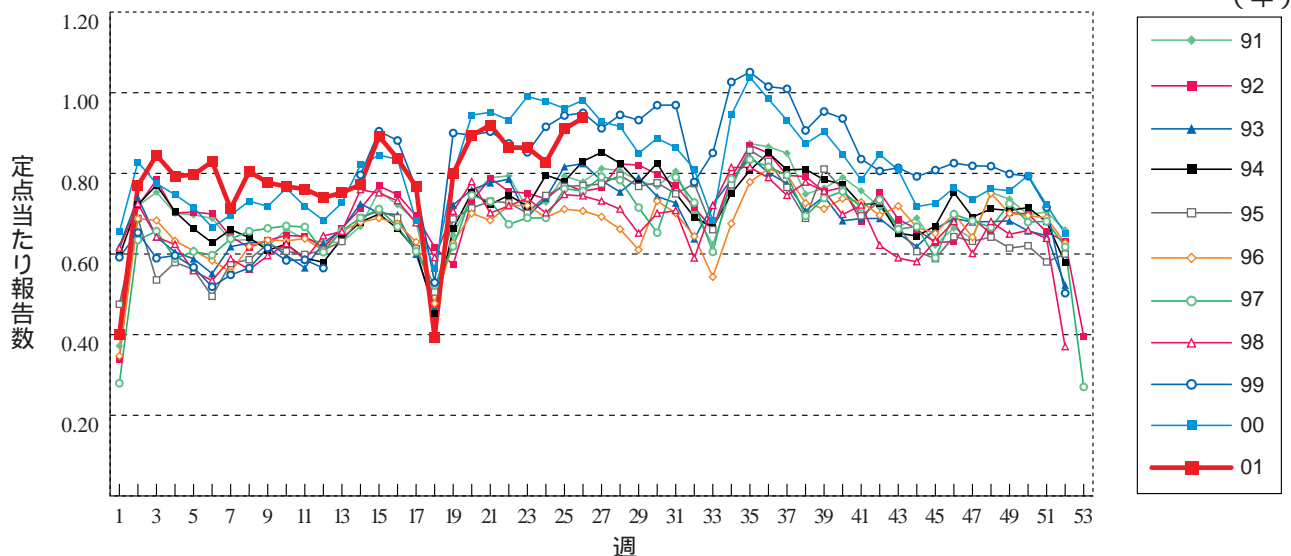
**手足口病**



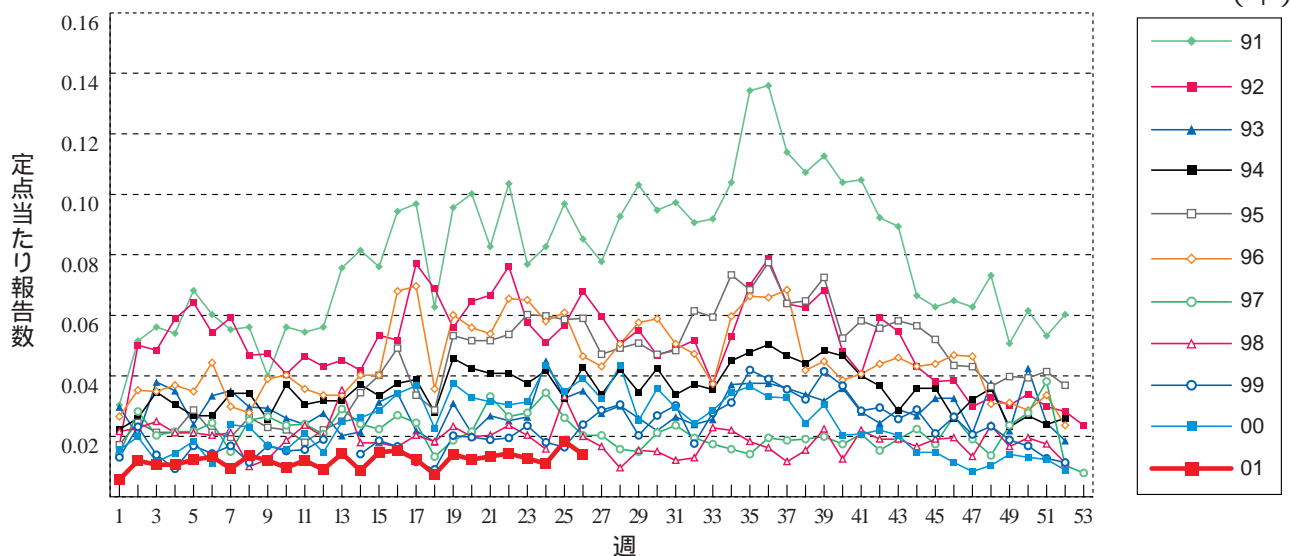
伝染性紅斑



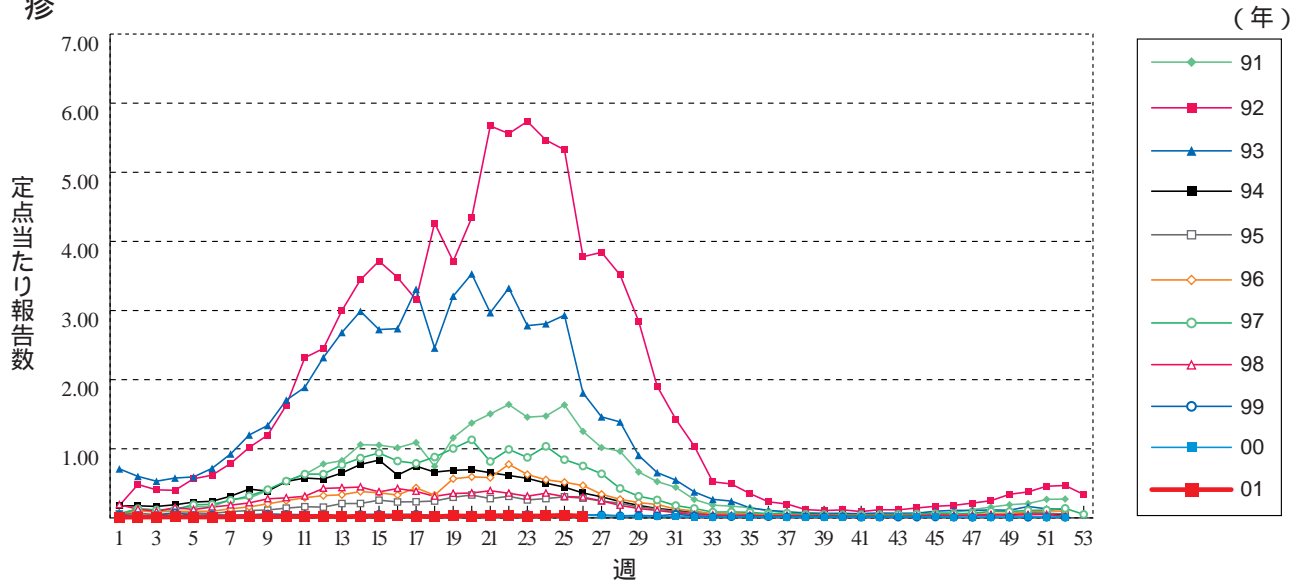
突発性発疹



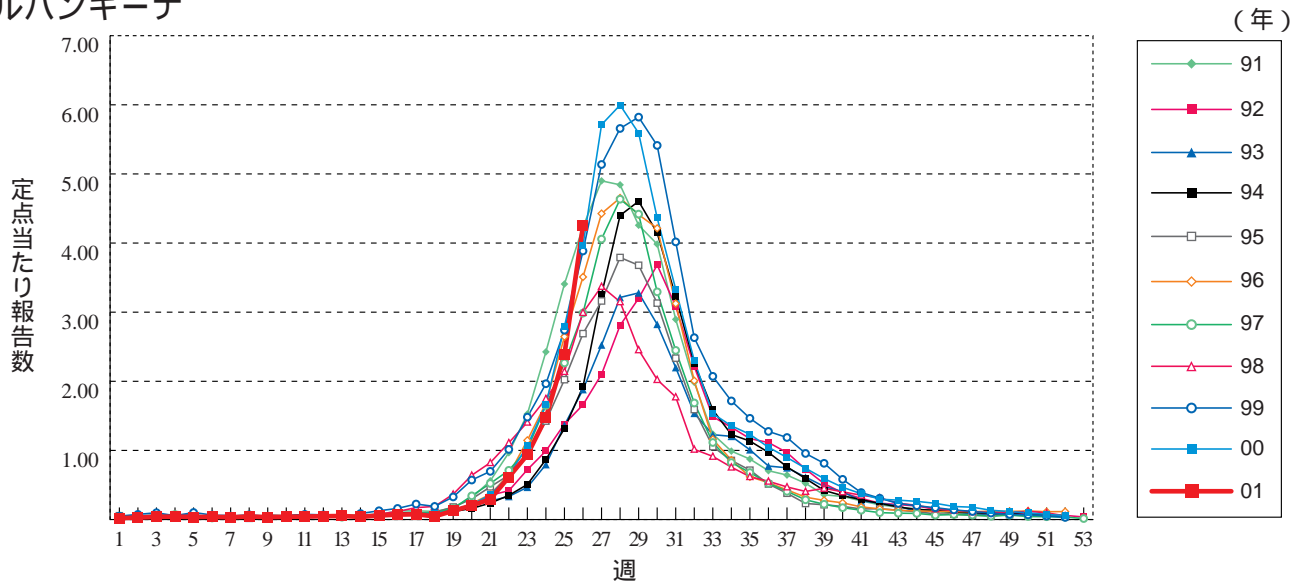
百日咳



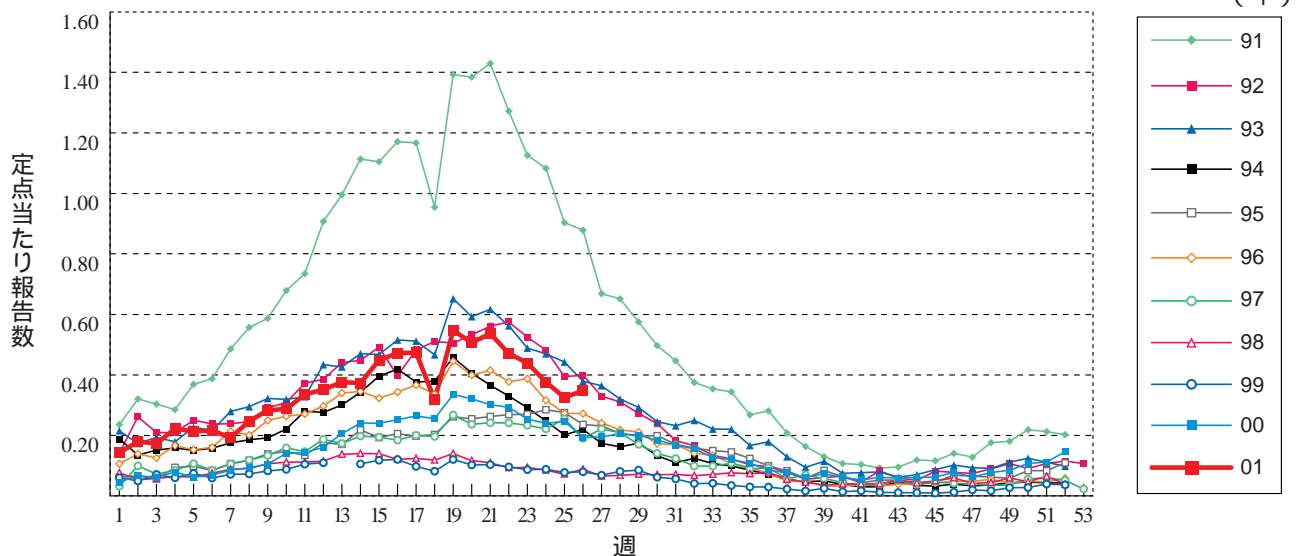
風 疹



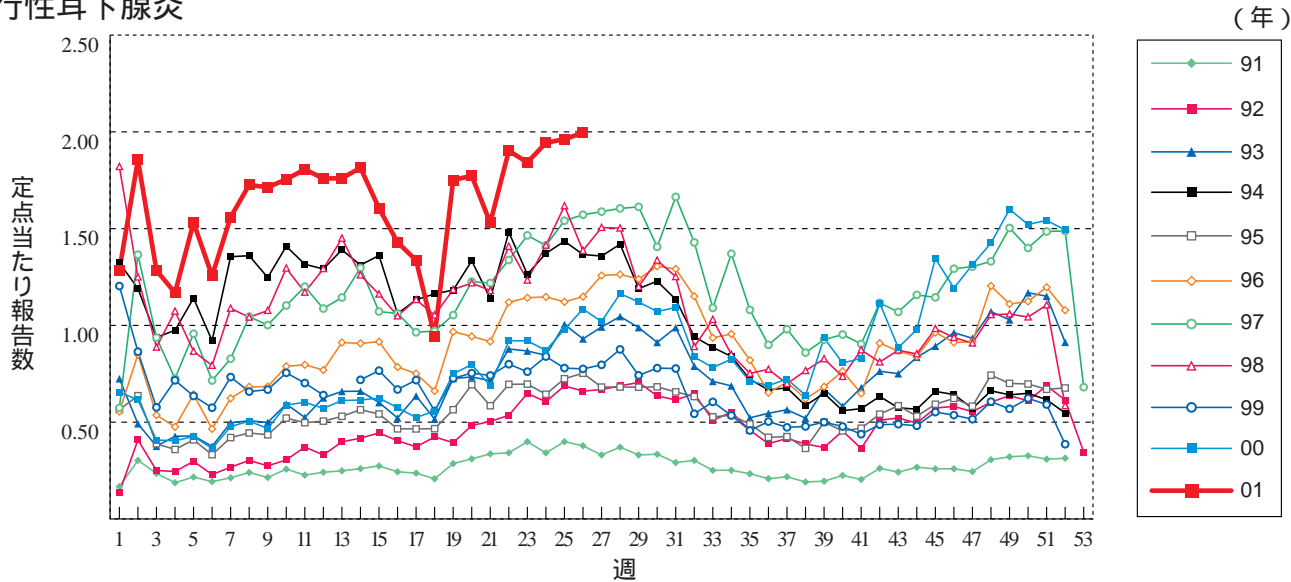
ヘルパンギーナ



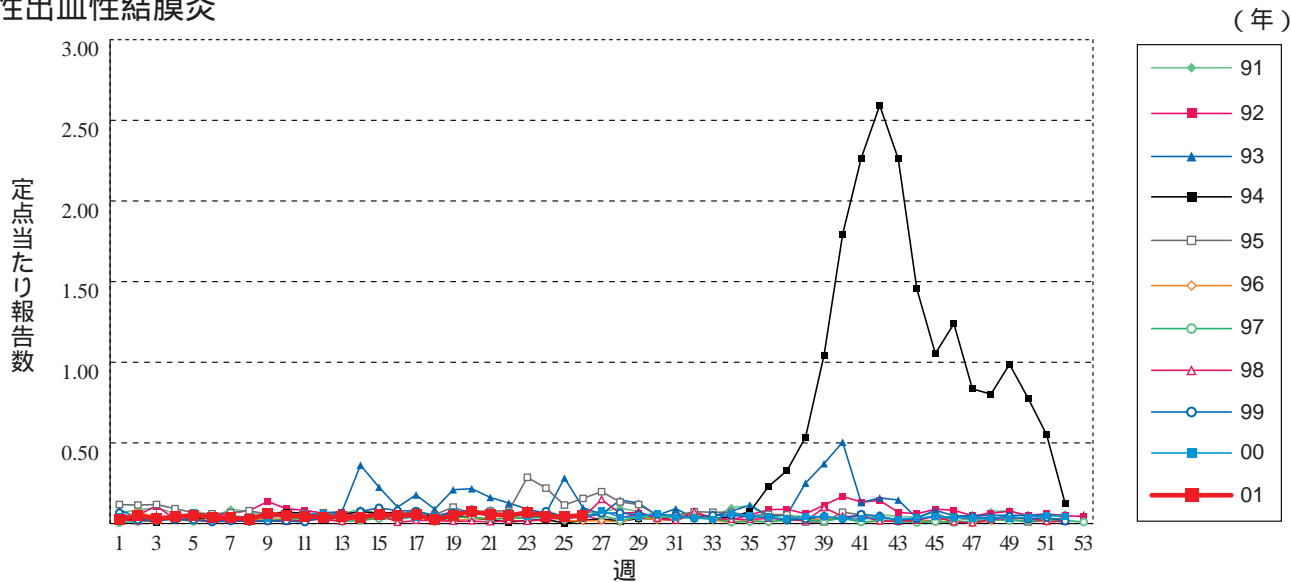
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



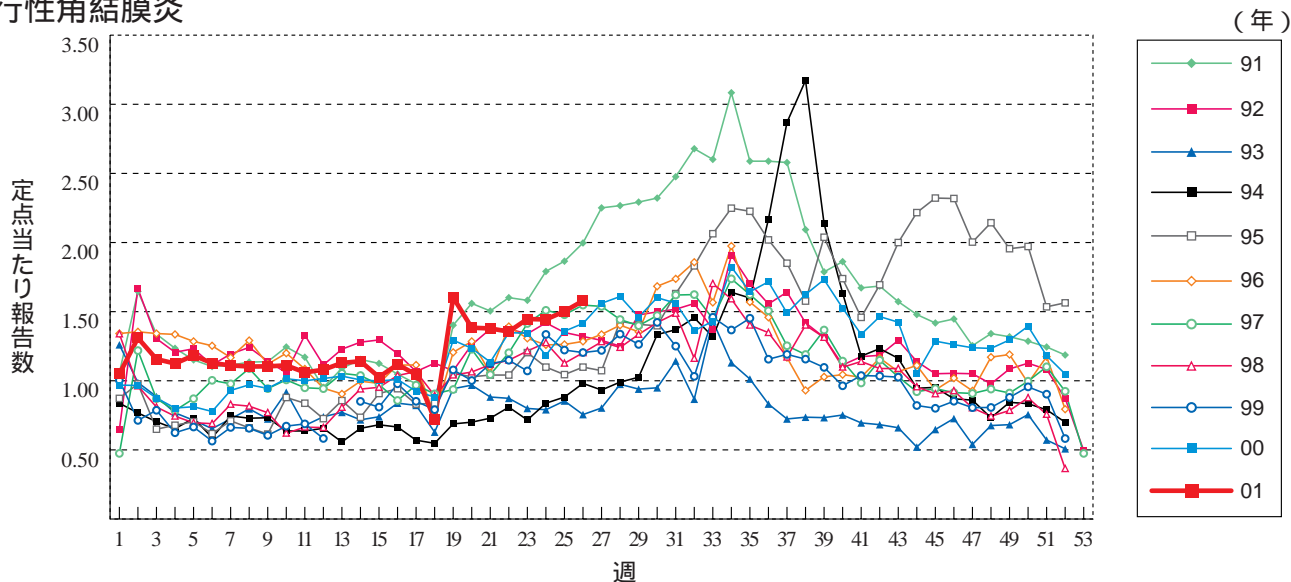
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

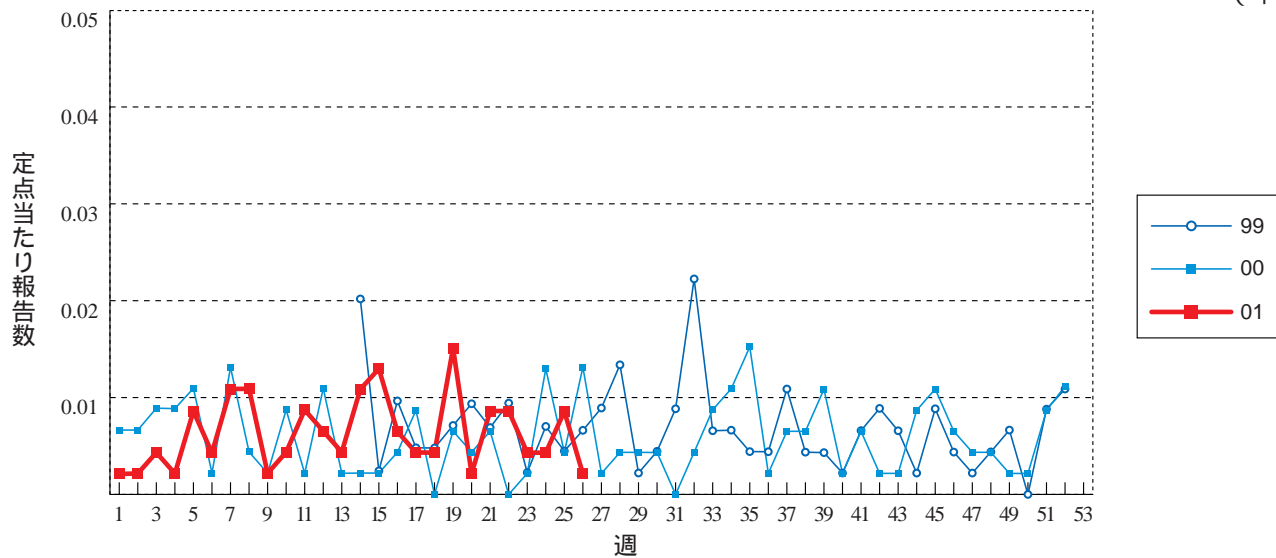


流行性角結膜炎



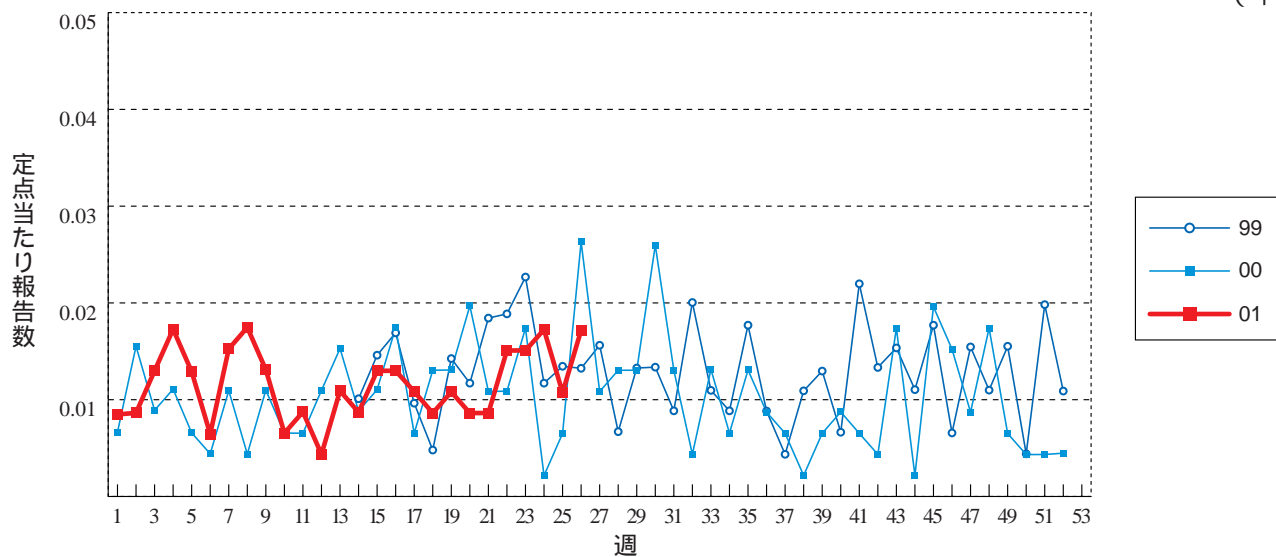
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



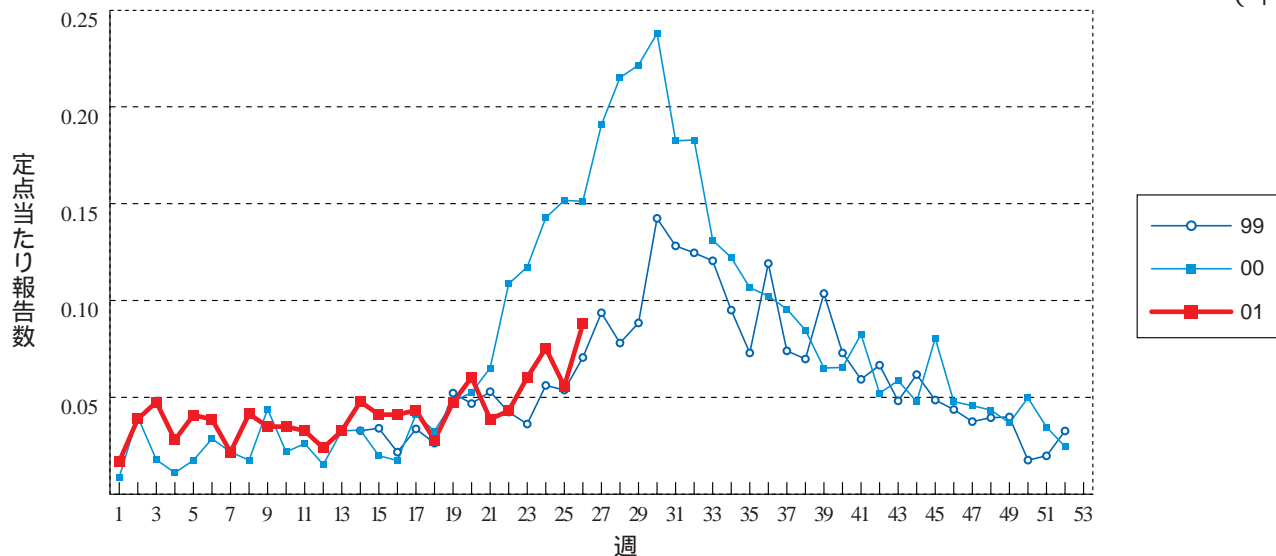
細菌性髄膜炎

(年)



無菌性髄膜炎

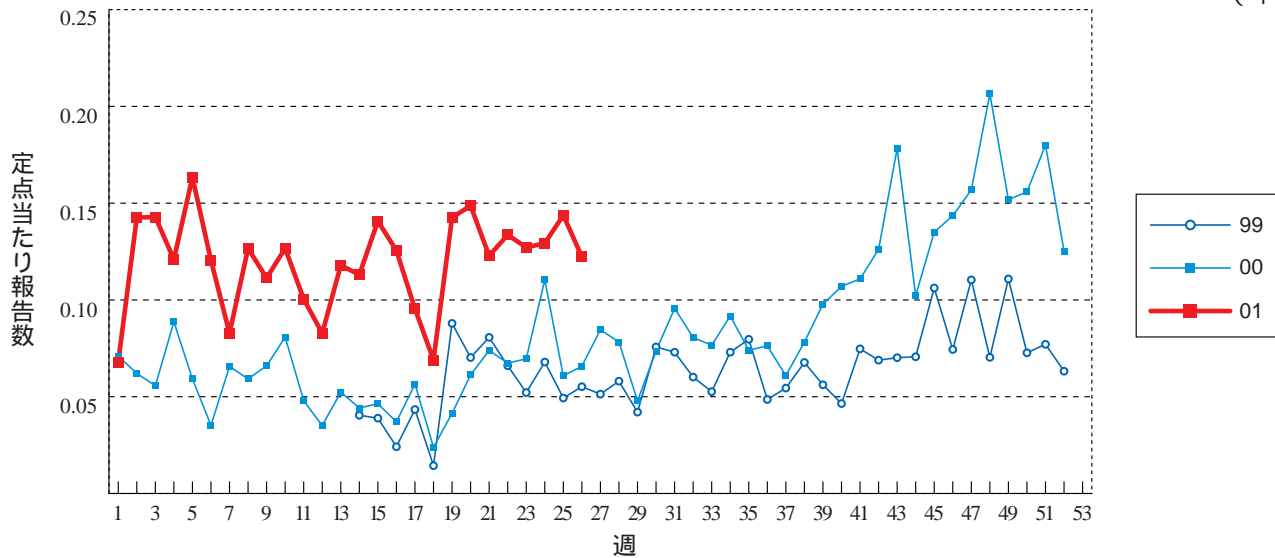
(年)





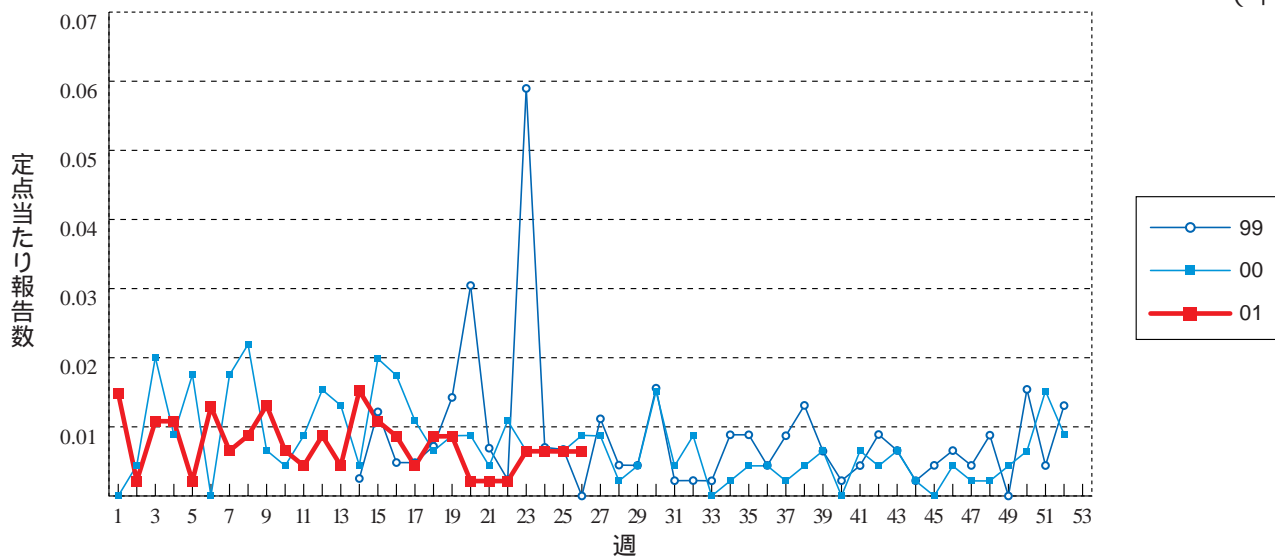
マイコプラズマ肺炎

(年)



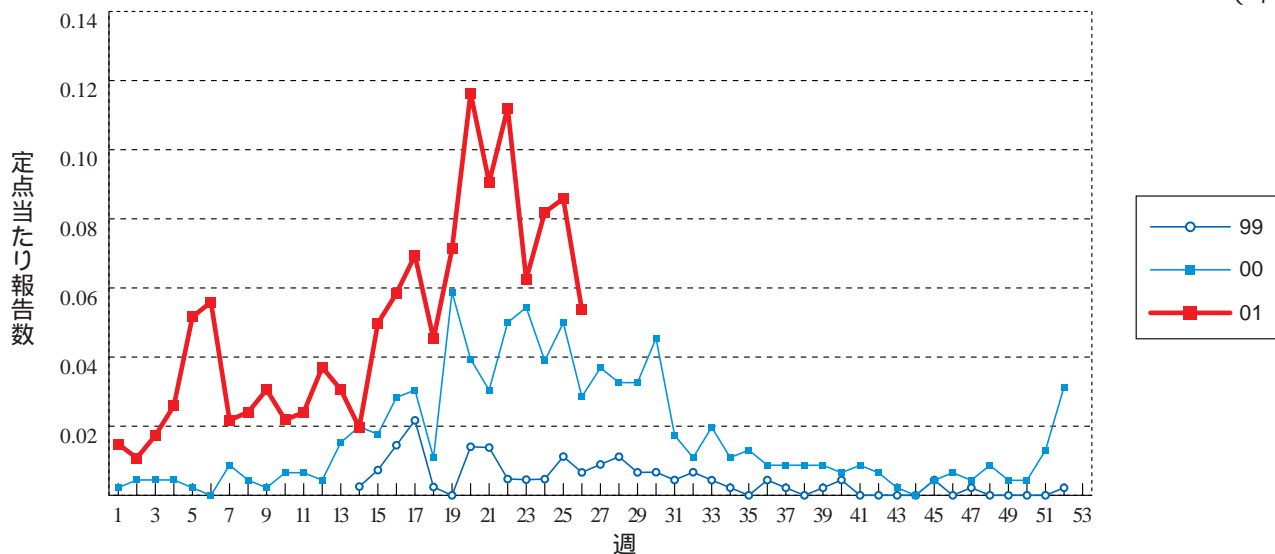
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 26週のデータ

注)表中の報告数は7月5日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年26週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	20	11	316	4	34	-	10
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	15	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	16	1	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	63	1	12	-	7	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	21	-	-	-	2	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	9	-	1	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	3	-	1	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	-	5	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	16	-	1	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年26週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	88	1195	4	178	1	5	-	-	-	19	-	-	14	412
北海道	-	-	-	-	1	35	-	2	1	5	-	-	-	-	-	-	-	5
青森県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	8	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	3	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	17
秋田県	-	-	-	-	2	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	3	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	1	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	3	21	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14
埼玉県	-	-	-	-	3	78	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
千葉県	-	-	-	-	3	164	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
東京都	-	-	-	-	11	108	2	60	-	-	-	-	-	6	-	-	-	59
神奈川県	-	-	-	-	1	111	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
新潟県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	12	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	1	29	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	1	10	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岐阜県	-	-	-	-	1	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39
静岡県	-	-	-	-	1	17	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
愛知県	-	-	-	-	2	51	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11
三重県	-	-	-	-	-	13	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	3	23	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	1	40	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大阪府	-	-	-	-	6	99	1	30	-	-	-	-	-	3	-	-	4	44
兵庫県	-	-	-	-	2	50	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
奈良県	-	-	-	-	-	22	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	1	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	2	21	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	19
広島県	-	-	-	-	1	31	-	4	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10
山口県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	1	7	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	3
福岡県	-	-	-	-	2	26	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
佐賀県	-	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	2	24	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
熊本県	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮崎県	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
鹿児島県	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
沖縄県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年26週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	12	-	-	-	3	1	50	1	24	10	425	-	1	2	68	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	7	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	14	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	-	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	3	29	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	2	1	4	-	2	2	179	-	-	2	32	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	1	-	3	-	-	-	37	-	-	-	5	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	6	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	1	-	1	-	7	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	2	-	17	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	3	35	-	-	-	11	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	5	1	2	-	10	-	-	-	1	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年26週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	4	-	-	-	-	12	185	-	14	2	13	-	-	-	-	8	256
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
青森県	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
秋田県	-	-	-	-	-	-	2	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
山形県	-	-	-	-	-	-	3	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	-	7	-	-	-	-	-	-	-	48
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	2	10	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	12
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
徳島県	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8	-	-	-	-	-	2
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2



第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年26週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	3	29	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	2	47	-	-	-	39
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
千葉県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
東京都	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	5
神奈川県	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岐阜県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年26週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	343	0.07	961	0.32	3429	1.14	8842	2.95	6051	2.02	9275	3.09	3441	1.15	2811	0.94	42	0.01
北海道	7	0.03	40	0.28	208	1.43	227	1.57	435	3.00	100	0.69	34	0.23	115	0.79	2	0.01
青森県	17	0.27	32	0.76	20	0.48	71	1.69	88	2.10	24	0.57	35	0.83	34	0.81	2	0.05
岩手県	1	0.02	7	0.19	32	0.86	61	1.65	76	2.05	8	0.22	49	1.32	24	0.65	1	0.03
宮城県	2	0.02	11	0.19	108	1.83	286	4.85	224	3.80	26	0.44	92	1.56	77	1.31	-	-
秋田県	4	0.07	-	-	36	1.03	127	3.63	66	1.89	148	4.23	50	1.43	17	0.49	1	0.03
山形県	11	0.23	2	0.07	90	3.00	88	2.93	53	1.77	28	0.93	57	1.90	34	1.13	-	-
福島県	3	0.04	4	0.08	27	0.56	145	3.02	145	3.02	21	0.44	46	0.96	58	1.21	-	-
茨城県	10	0.08	13	0.18	73	1.00	191	2.62	97	1.33	47	0.64	44	0.60	29	0.40	-	-
栃木県	-	-	15	0.33	84	1.83	99	2.15	66	1.43	11	0.24	40	0.87	46	1.00	-	-
群馬県	-	-	18	0.29	83	1.34	118	1.90	93	1.50	109	1.76	74	1.19	58	0.94	-	-
埼玉県	24	0.09	125	0.78	279	1.74	554	3.46	514	3.21	459	2.87	465	2.91	179	1.12	2	0.01
千葉県	-	-	42	0.33	221	1.73	335	2.62	274	2.14	332	2.59	249	1.95	124	0.97	1	0.01
東京都	-	-	14	0.10	67	0.47	310	2.18	139	0.98	143	1.01	114	0.80	87	0.61	1	0.01
神奈川県	23	0.07	64	0.31	196	0.95	595	2.89	388	1.88	322	1.56	249	1.21	243	1.18	1	0.00
新潟県	-	-	25	0.42	114	1.90	186	3.10	181	3.02	66	1.10	16	0.27	48	0.80	-	-
富山県	-	-	1	0.03	63	2.17	68	2.34	55	1.90	8	0.28	35	1.21	21	0.72	-	-
石川県	-	-	1	0.03	20	0.69	175	6.03	64	2.21	29	1.00	48	1.66	22	0.76	-	-
福井県	-	-	3	0.14	19	0.86	122	5.55	58	2.64	190	8.64	48	2.18	15	0.68	-	-
山梨県	9	0.22	2	0.08	19	0.76	42	1.68	49	1.96	162	6.48	54	2.16	6	0.24	-	-
長野県	1	0.01	3	0.06	102	1.89	188	3.48	221	4.09	102	1.89	56	1.04	41	0.76	-	-
岐阜県	10	0.14	31	0.66	84	1.79	107	2.28	82	1.74	119	2.53	65	1.38	41	0.87	-	-
静岡県	5	0.04	35	0.41	101	1.17	296	3.44	150	1.74	182	2.12	99	1.15	89	1.03	3	0.03
愛知県	1	0.01	132	0.73	198	1.09	440	2.42	349	1.92	324	1.78	309	1.70	159	0.87	4	0.02
三重県	-	-	8	0.18	28	0.62	221	4.91	116	2.58	254	5.64	61	1.36	49	1.09	1	0.02
滋賀県	-	-	40	1.25	14	0.44	52	1.63	60	1.88	17	0.53	17	0.53	13	0.41	1	0.03
京都府	4	0.03	67	0.88	48	0.63	263	3.46	68	0.89	66	0.87	45	0.59	59	0.78	1	0.01
大阪府	12	0.04	45	0.23	153	0.79	557	2.87	349	1.80	62	0.32	138	0.71	151	0.78	-	-
兵庫県	1	0.01	19	0.15	126	1.00	475	3.77	281	2.23	400	3.17	99	0.79	128	1.02	3	0.02
奈良県	-	-	3	0.09	24	0.69	112	3.20	75	2.14	9	0.26	72	2.06	31	0.89	1	0.03
和歌山県	-	-	8	0.26	24	0.77	66	2.13	44	1.42	9	0.29	4	0.13	30	0.97	1	0.03
鳥取県	1	0.03	4	0.21	51	2.68	123	6.47	33	1.74	2	0.11	9	0.47	25	1.32	-	-
島根県	-	-	2	0.09	11	0.48	49	2.13	24	1.04	17	0.74	4	0.17	18	0.78	-	-
岡山県	10	0.12	3	0.06	37	0.69	144	2.67	67	1.24	41	0.76	21	0.39	24	0.44	1	0.02
広島県	-	-	10	0.20	83	1.63	207	4.06	95	1.86	124	2.43	106	2.08	63	1.24	3	0.06
山口県	-	-	24	0.49	88	1.80	140	2.86	83	1.69	492	10.04	52	1.06	62	1.27	-	-
徳島県	-	-	-	-	21	0.91	44	1.91	52	2.26	60	2.61	16	0.70	17	0.74	2	0.09
香川県	-	-	4	0.13	23	0.72	99	3.09	29	0.91	30	0.94	27	0.84	35	1.09	1	0.03
愛媛県	-	-	11	0.28	33	0.85	140	3.59	67	1.72	64	1.64	71	1.82	32	0.82	1	0.03
高知県	-	-	4	0.13	24	0.77	55	1.77	55	1.77	13	0.42	15	0.48	28	0.90	-	-
福岡県	97	0.53	30	0.29	123	1.17	415	3.95	243	2.31	1604	15.28	181	1.72	156	1.49	4	0.04
佐賀県	-	-	6	0.26	17	0.74	36	1.57	67	2.91	397	17.26	11	0.48	40	1.74	1	0.04
長崎県	-	-	7	0.15	38	0.79	90	1.88	48	1.00	156	3.25	32	0.67	46	0.96	1	0.02
熊本県	-	-	6	0.12	57	1.16	133	2.71	79	1.61	554	11.31	34	0.69	58	1.18	1	0.02
大分県	-	-	15	0.42	46	1.28	154	4.28	89	2.47	924	25.67	29	0.81	62	1.72	-	-
宮崎県	-	-	9	0.24	70	1.89	188	5.08	46	1.24	475	12.84	45	1.22	60	1.62	-	-
鹿児島県	16	0.16	14	0.23	40	0.67	233	3.88	86	1.43	531	8.85	22	0.37	49	0.82	-	-
沖縄県	74	1.28	2	0.06	6	0.18	15	0.44	28	0.82	14	0.41	2	0.06	8	0.24	1	0.03

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年26週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	78	0.03	12741	4.25	1043	0.35	5984	2.00	33	0.05	988	1.58	1	0.00	8	0.02	41	0.09
北海道	7	0.05	79	0.54	92	0.63	267	1.84	-	-	39	1.34	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	20	0.48	5	0.12	55	1.31	-	-	34	3.09	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	32	0.86	3	0.08	36	0.97	-	-	8	0.67	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	126	2.14	10	0.17	77	1.31	-	-	4	0.36	-	-	-	-	-	-
秋田県	1	0.03	12	0.34	13	0.37	27	0.77	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	34	1.13	4	0.13	55	1.83	-	-	14	1.75	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	176	3.67	44	0.92	68	1.42	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	131	1.79	19	0.26	179	2.45	-	-	51	3.19	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	293	6.37	2	0.04	69	1.50	2	0.17	32	2.67	-	-	1	0.14	2	0.29
群馬県	-	-	391	6.31	7	0.11	57	0.92	-	-	30	2.14	-	-	2	0.20	-	-
埼玉県	4	0.03	1127	7.04	32	0.20	466	2.91	3	0.08	69	1.92	-	-	-	-	-	-
千葉県	5	0.04	386	3.02	61	0.48	281	2.20	-	-	65	1.97	-	-	-	-	2	0.15
東京都	4	0.03	676	4.76	20	0.14	125	0.88	-	-	30	2.14	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	2	0.01	1113	5.40	57	0.28	432	2.10	2	0.05	72	1.71	-	-	-	-	2	0.18
新潟県	-	-	398	6.63	1	0.02	224	3.73	-	-	6	0.67	-	-	-	-	-	-
富山県	1	0.03	17	0.59	-	-	69	2.38	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	36	1.24	12	0.41	110	3.79	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	46	2.09	6	0.27	134	6.09	-	-	21	7.00	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.04	26	1.04	4	0.16	16	0.64	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	2	0.04	157	2.91	9	0.17	167	3.09	3	0.30	21	2.10	-	-	1	0.08	-	-
岐阜県	-	-	129	2.74	11	0.23	123	2.62	-	-	17	1.55	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	481	5.59	36	0.42	157	1.83	1	0.05	19	0.95	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	0.01	717	3.94	71	0.39	361	1.98	-	-	75	2.14	-	-	-	-	1	0.08
三重県	1	0.02	320	7.11	4	0.09	113	2.51	1	0.08	4	0.33	-	-	-	-	1	0.11
滋賀県	-	-	130	4.06	8	0.25	43	1.34	-	-	5	0.71	-	-	-	-	2	0.29
京都府	1	0.01	559	7.36	20	0.26	123	1.62	-	-	10	0.56	-	-	-	-	2	0.33
大阪府	10	0.05	1372	7.07	59	0.30	411	2.12	4	0.08	36	0.69	1	0.08	1	0.08	4	0.33
兵庫県	11	0.09	790	6.27	19	0.15	172	1.37	-	-	44	1.29	-	-	-	-	1	0.07
奈良県	-	-	220	6.29	9	0.26	67	1.91	-	-	8	0.89	-	-	-	-	-	-
和歌山県	2	0.06	227	7.32	7	0.23	73	2.35	-	-	5	1.25	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	106	5.58	-	-	10	0.53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	97	4.22	8	0.35	19	0.83	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	135	2.50	13	0.24	56	1.04	-	-	6	0.50	-	-	1	0.20	-	-
広島県	3	0.06	656	12.86	35	0.69	91	1.78	1	0.08	33	2.75	-	-	-	-	3	0.21
山口県	-	-	67	1.37	18	0.37	74	1.51	1	0.11	16	1.78	-	-	-	-	-	-
徳島県	1	0.04	296	12.87	12	0.52	43	1.87	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	139	4.34	5	0.16	102	3.19	1	0.33	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	252	6.46	2	0.05	93	2.38	-	-	17	2.43	-	-	-	-	2	0.33
高知県	1	0.03	151	4.87	5	0.16	8	0.26	-	-	9	3.00	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	260	2.48	89	0.85	386	3.68	-	-	62	2.58	-	-	-	-	1	0.07
佐賀県	-	-	70	3.04	9	0.39	85	3.70	-	-	1	0.25	-	-	-	-	1	0.17
長崎県	1	0.02	20	0.42	10	0.21	60	1.25	14	1.40	21	2.10	-	-	-	-	1	0.07
熊本県	-	-	97	1.98	52	1.06	105	2.14	-	-	25	2.78	-	-	2	0.13	8	0.53
大分県	3	0.08	84	2.33	22	0.61	60	1.67	-	-	3	0.60	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.03	55	1.49	42	1.14	64	1.73	-	-	19	4.75	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	3	0.05	27	0.45	20	0.33	106	1.77	-	-	8	1.33	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	6	0.18	8	0.24	56	1.65	65	1.91	-	-	10	1.00	-	-	-	-	2	0.29

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年26週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	57	0.12	3	0.01	25	0.05
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	1	0.05	-	-	1	0.05
宮城県	7	0.58	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	1	0.10	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	0.14
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.04	-	-	7	0.28
神奈川県	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	2	0.40	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.13	-	-	1	0.13
愛知県	4	0.31	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	2	0.29	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	0.08
兵庫県	-	-	1	0.07	1	0.07
奈良県	2	0.33	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	4	0.80	-	-	-	-
島根県	2	0.25	-	-	-	-
岡山県	1	0.20	-	-	2	0.40
広島県	2	0.14	-	-	1	0.07
山口県	1	0.11	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	5	0.83	-	-	-	-
高知県	3	0.38	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	4	0.27
佐賀県	-	-	-	-	2	0.33
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	2	0.13	-	-	1	0.07
大分県	2	0.20	-	-	-	-
宮崎県	2	0.29	2	0.29	-	-
鹿児島県	3	0.25	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	2	0.29

感染症週報 第3巻、第26号 平成13年7月13日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html  
<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
http://www.mhlw.go.jp/  
<厚生労働省>  
http://www.forth.go.jp/  
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。